

# 本堂や山門・鐘楼、 客殿等の老朽化に 不安はありませんか？

## ご提案

池田社寺建築設計事務所では、  
**無料で現状調査**  
**いたします。**

お気軽にお問い合わせください。

台風や大雪、地震での破損、シロアリなどの害虫被害、建物の老朽化など、社寺建築は少なくとも30～50年に一度は大規模修繕が必要となります。後世に受け継いでいくためにも、建物の現状を調査・把握することは重要です。

弊社では建物の老朽化によって見受けられる右記3項目の無料現状調査をいたします。トラブルの原因によっては事前の症状も見られますのでご参考になさってください。

右記調査に加え、工事計画のアドバイス、既存図面の作成、お見積などは無料です。

ご希望がございましたら、弊社が関わった建築物の現地見学会などをご案内いたします。

完成工事履歴（新築、改修）については弊社WEBサイトをご覧ください。

[www.ikeda-shaji.co.jp](http://www.ikeda-shaji.co.jp)

## ① 柱の足元および床組、壁の調査

昭和20年以前の建築は礎石の上に柱を立てる工法が主流で建物全体が不安定な状態なものが少なくありません。地震等で柱がずれると不同沈下（基礎や構造物が不揃いに傾いて沈下）を起こし、建物全体のバランスを失います。これによって床組全体が歪み床板等の軋み音が発生します。

改修工事にあたっては耐圧盤（建物の重さを支えるため、床下全面に設けた鉄筋コンクリートの盤）等で足元を補強して建物の安定を図るのが重要です。

次に、古い本堂等では耐震壁として機能する壁がとて少なく、耐震建築とは言える建物は多くありません。この改修方法としては小舞竹組（土壁の下地）の土盛を解体して合板下地にモルタル、漆喰塗を施します。以上の改修で床が水平になり柱の傾斜も無くなり建物全体が安定します。



## ② 雨漏り（屋根、小屋裏）の調査

以下のような状況が確認された場合には軒先も含めた屋根の改修工事が必要です。

- 瓦の耐用年数は一般的に80年前後と言われています。台風や地震等により瓦がズレたりして雨漏りの原因となり得ます。また、下地の葺土（瓦をのせる土）が風化して瓦が固定できていない状態が過去の調査事例で散見されています。
- 銅板葺の雨漏りの原因はハゼ掛（銅板の端を折り曲げ、引っ掛け合わせて継ぐ部分）して葺いているハゼに亀裂が入ったり、棟部分の施工不良により雨漏りする事例も多く見られます。
- 小屋組等については、梁等の各部材が全体的に細く、特に桔木（はねぎ：軒先の重量を支える部材）が細く、軒先が垂れ下がりて屋根が変形している状況が多く見られます。



建物は築年数、地盤の強弱、使用木材、立地条件等により傷み具合がすべて違います。まずは調査依頼をお待ちしております。

建物の大きさや構造にもよりますが、目安として調査には半日～1日を必要とします。都度写真を撮影し、ご報告させていただきます。

## ③ 仏具の調査

仏具等の修復、新調に関してもご相談を承ります。